關西大學新聞
（毎月二日一日一回發行）
編輯兼發行人　同盟通信社　安田哲義
印刷所　大阪市東淀川區十三本町一丁目
山田印刷所
部數　一千部
共同

日本國家の指導性

―一視同仁の東亞治道―

岩崎卯一

昭和十六年十二月八日から僅かに半年餘にして、日本の主權はその安當領域を約四倍に增大し、日本の主權に服從する人間の數は一億二億と成り、物資的の資源の如何は嬉い問はずとするも現在の日本は何れの方面より眺むるも、確に世界有數の强大國と成つたのである。而も、日本の膨脹は、限會武力行使に依りもたらされたりとは言へ、地域的に、人種的に、文化的に、天意に順從するものゝごとく「自然」であり、近き將來において、中樞神經たる位置を占むる日本國家の「指導如何」に依りて、これら新興一億の同胞を、充分同化融合せしめ、四億圏に增大せる大東亞共榮圏を、完全に統制することが可能であると思はれる。

八紘爲宇の大精神のもとに現在までの日本國民が、時には群盲的衝動的なる政治情勢の水嶺したるにもかかはらず、結局全國民の大和民族意識と感情とを練成することに成功せしめは、日本國民が自他を同化融合する素質に惠まれてゐる點を、歷史的に證明するものである。

この點より考へても、日本國家の急激なる領土的及び人口的膨脹の前途に就て、一部の識者のごとく、杞憂の念を抱き悲觀する必要はない。しかし、日本國家が斯かる天業を完全に遂行するためには、自己の指導性如何に關して、謙虛なる反省を以て、充分反省自戒する必要がある。

一

東亞の農業社會は、相互の間に何らの緊密なる連繫統一を有しないけれども、その稅底においては、共通の性格をもつといはれる。とくに東亞の農業の自然的、技術的條件、その耕種機械、生產關係、土地制度、さらにその上に成立する農村社會の構造等に共通の特徵がみられる。

その第一として通常あげられるのは、アジア・モンスーン地帶の特殊な氣候風土的條件に制約された東亞農業共通の自然的基礎である。

このモンスーン地帶――大東亞季節風域に屬する地域は、北はシベリア沿海地方から、日本はもちろん、支那の東半、比島、佛印、泰、マレー、ビルマ、インドを合み、さらに赤道をこえて東インド、濠洲北部におよぶ。東端はニューギニアビスマルク諸島、ソロモン諸島を含む東經一二〇度にのび、西はインドをこえてはるかにペルシヤ灣にいたる廣大な地域である。

二

これらの地域では、季節風の交替によつて、一年が雨期と乾期とにわかれる。雨期となる五月から十月にかゝる夏季の暴風雨は、農作物をうちまかすほど猛烈に雜草を生じ繁らせるのみか、作物自體に雜草等の有害な作用をおよぼすこのために、東亞農業における除草、除蟲、一連の手のこんだ農作業勞働は不可缺とされた。東亞農業の特徵の一つ、「花よりあくるみよしのゝ春の曙みわたせばもろこし人もこまびともやまとにたりけるべし」と云ふ歌の如く、昔から漢、呉、高麗、新羅の人々も遂々吾が日本民族と同化して同心一體となつて今日に及んで居るのである。その朝鮮や支那の歸化人が孰れも日本文化に刺戟を受けて種々の日本文化に影響を與へたことは、歷史的事實である。

また、モンスーン地帶の自然的暴威の前然さは、大陸周邊の主要農業地帶において降雨期にはしばしば洪水を起し、雨期の到來がおそかつたり、雨期のあがるのが早かつたりすると、萬物すべてを早上らせてしまふほどかやうな自然的風土的環境に、適應して、一部の識者のごとく、杞憂の念を抱き悲觀する必要はない。しかし、日本國家が斯かる天業を遂行するためには、自己の指導性如何に關して、謙虛なる反省を以て、充分反省自戒する必要がある。

二

先づ日本國家が、大東亞戰下に、示しつゝある膨脹の方向を、客觀的に檢討しつゝ、その「自然性」を證明するであらう。第一に、新附一億の同胞は、ニューギニア島民の一部黑奴を除けば、今村東印度島總督（軍司令官）にして總督の職を代行しつゝある故に斯ノ呼ム）の軍政布告第一號に言へる「同族同組」なる言葉が、必ずしも強附會にあらざるほどに、人種的に類似せる相貌を具備してゐる。

就中、日本國家を中心とする大東亞の防衛上、戰略的に又經濟的に、最も重要なる地位を占めるマレー、スマトラ、ジヤバの原住民が人種的にも亦た活潑性にても、日本國民一般に近似し、近き將來における「皇民化」の實を擧ぐる可能性最も多き點は已に零諸地域の我國土編入が漸次準實と成りつつある現在の情勢より見ても、前途の有望を想ひ出しあるものがある。ヒリツピン人の難も、三百年來の歐米化政策より完全に解放され、先づ東亞人たるの自覺を呼び起し、次に八紘一宇の我國國に感化せしられば、日本は、「大和魂」の「自然の大道」に沿ひつゝ試みられてゐる。

三

次に、日本國家は、斯くのごとき大帝國の完成を前にして自己の指導性に如何なる反省を加ふべきであらうか。それは、不自然なる差別觀念を撤廢して、文字通り「一視同仁」の政治を徹底的に行ふこと以外にないのである「一視同仁」の政治とは、我が占領地の住民に「國家的獨立」を與へることではない。

獨立の意志あるも獨立の能力なき群小諸國家の悲慘なる運命は、人はこれを歐州の現代史の隨所に見出すであらう。かゝる運命の到來を豫想しつゝ、强大國家に併合せられし諸國家の國民、就中その知識階級がなほ獨立運動に狂奔し、所謂「嬉郷の斧を振る」は、强大國家の內部にありて、「差別觀念」に惱むが故である。「差別觀念」は「一視同仁」觀念」の對極である。この點に、深き反省を加へざれば、國土、國民の量産々大は內部の紛亂に惱む度合はなり、結局崩壞の一路を辿るであらう。

かく言へばとて、新附の民、本國人と占領地住民との間に文化教養上顯著なる相違の存ることは、何人といへども、これを否認せざるを得ない。これらを「一視同仁」の原則に依り無差別に待遇し、彼等の一部がこれを要求せば、ボルネオの土民にまで獨立國家の主權者たる地位を與へんと言ふごとき、現實國家の統治方針を決する小見病的議論である。如何に「差別觀念」を憎めばとて、一字をも嚇せざる無學の徒をも、大學の講壇に立たずべしと主張する者は、狂人以外にないであらう。嗚て、日本國民の間においても、士族と平民との間において、文化教養上格段の差等が認められてゐたのかる差等が先天的なる素質に因るにあらず後天的なる教育にあることを明快に證明したるは、明治維新の精神を承けたる明治時代教育制度である。美しき成果はいまや半島の同胞について試驗せられ、同一の實を結びつつある。この經驗を新附一億の同胞の上に及ぼすことが、一視同仁の基礎條件である。この基礎條件を充たす國會を與へずして、新附一億の同胞の參政權を、「差別觀念」を憎むとするマレー、東インド諸島、三つの地帶、三つの型の、指導的議員一型態をなすものにいふまでもなく、第一の型である。いまや、第一の型の進歩の先頭に立つ日本國家は、その後進性と際經濟を打破し、新たなる有機的統一體に喜ばられねばならぬ。

東亞農業の特質

―零細性の自然的歷史的條件―

櫻井武雄

東亞農業社會は、相互の間に何らの緊密なる連繫統一を有しないけれども、その稅底においては、共通の性格をもつといはれる。とくに東亞の農業の自然的、技術的條件、その耕種機械、生產關係、土地制度、さらにその上に成立する農村社會の構造等に共通の特徵がみられる。

その第一として通常あげられるのは、アジア・モンスーン地帶の特殊な氣候風土的條件に制約された東亞農業共通の自然的基礎である。

東亞季節風域に屬する地域は、北はシベリア沿海地方から、日本はもちろん、支那の東半、比島、佛印、泰、マレー、ビルマ、インドを合み、さらに赤道をこえて東インド、濠洲北部におよぶ。東端はニューギニアビスマルク諸島、ソロモン諸島を含む東經一二〇度にのび、西はインドをこえてはるかにペルシヤ灣にいたる廣大な地域である。

二

これらの地域では、季節風の交替によつて、一年が雨期と乾期とにわかれる。雨期となる五月から十月にかゝる夏季の暴風雨は、農作物をうちまかすほど猛烈に雜草を生じ繁らせるのみか、作物自體に雜草等の有害な作用をおよぼすこのために、東亞農業における除草、除蟲等の作業勞働は不可缺とされた。東亞農業の特徵の一つ、一連の手のこんだ農作業勞働は、この點に、東亞農業における「集約化」の要件をなした。

さらにまた、高溫多濕の環境に、高潤を忌む牧畜の發展を不可能ならしめ、東亞農業から牧畜の結合を排除する基本的條件となつてゐる。

また、モンスーン地帶の自然的暴威の前然さは、大陸周邊の主要農業地帶において降雨期にはしばしば洪水を起し、雨期の到來がおそかつたり、雨期のあがるのが早かつたりすると、萬物すべてを早上らせてしまふほどかやうな自然的風土的環境に、適應して、一部の識者のごとく、杞憂の念を抱き悲觀する必要はない。しかし、日本國家が斯かる天業を遂行するためには、自己の指導性如何に關して、謙虛なる反省を以て、充分反省自戒する必要がある。

二

先づ日本國家が、大東亞戰下に、示しつゝある膨脹の方向を、客觀的に檢討しつゝ、その「自然性」を證明するであらう。第一に、新附一億の同胞は、ニューギニア島民の一部黑奴を除けば、今村東印度島總督（軍司令官）にして總督の職を代行しつゝある故に斯ノ呼ム）の軍政布告第一號に言へる「同族同組」なる言葉が、必ずしも強附會にあらざるほどに、人種的に類似せる相貌を具備してゐる。

就中、日本國家を中心とする大東亞の防衛上、戰略的に又經濟的に、最も重要なる地位を占めるマレー、スマトラ、ジヤバの原住民が人種的にも亦た活潑性にても、日本國民一般に近似し、近き將來における「皇民化」の實を擧ぐる可能性最も多き點は已に零諸地域の我國土編入が漸次準實と成りつつある現在の情勢より見ても、前途の有望を想ひ出しあるものがある。ヒリツピン人の難も、三百年來の歐米化政策より完全に解放され、先づ東亞人たるの自覺を呼び起し、次に八紘一宇の我國國に感化せしられば、日本は、「大和魂」の「自然の大道」に沿ひつゝ試みられてゐる。

三

次に、日本國家は、斯くのごとき大帝國の完成を前にして自己の指導性に如何なる反省を加ふべきであらうか。それは、不自然なる差別觀念を撤廢して、文字通り「一視同仁」の政治を徹底的に行ふこと以外にないのである「一視同仁」の政治とは、我が占領地の住民に「國家的獨立」を與へることではない。

獨立の意志あるも獨立の能力なき群小諸國家の悲慘なる運命は、人はこれを歐州の現代史の隨所に見出すであらう。かゝる運命の到來を豫想しつゝ、强大國家に併合せられし諸國家の國民、就中その知識階級がなほ獨立運動に狂奔し、所謂「嬉郷の斧を振る」は、强大國家の內部にありて、「差別觀念」に惱むが故である。「差別觀念」は「一視同仁」觀念」の對極である。この點に、深き反省を加へざれば、國土、國民の量産々大は內部の紛亂に惱む度合はなり、結局崩壞の一路を辿るであらう。

かく言へばとて、新附の民、本國人と占領地住民との間に文化教養上顯著なる相違の存ることは、何人といへども、これを否認せざるを得ない。これらを「一視同仁」の原則に依り無差別に待遇し、彼等の一部がこれを要求せば、ボルネオの土民にまで獨立國家の主權者たる地位を與へんと言ふごとき、現實國家の統治方針を決する小見病的議論である。如何に「差別觀念」を憎めばとて、一字をも嚇せざる無學の徒をも、大學の講壇に立たずべしと主張する者は、狂人以外にないであらう。嗚て、日本國民の間においても、士族と平民との間において、文化教養上格段の差等が認められてゐたのかる差等が先天的なる素質に因るにあらず後天的なる教育にあることを明快に證明したるは、明治維新の精神を承けたる明治時代教育制度である。美しき成果はいまや半島の同胞について試驗せられ、同一の實を結びつつある。この經驗を新附一億の同胞の上に及ぼすことが、一視同仁の基礎條件である。この基礎條件を充たす國會を與へずして、新附一億の同胞の參政權を、「差別觀念」を憎むとするマレー、東インド諸島、三つの地帶、三つの型の、指導的議員一型態をなすものにいふまでもなく、第一の型である。いまや、第一の型の進歩の先頭に立つ日本國家は、その後進性と際經濟を打破し、新たなる有機的統一體に喜ばられねばならぬ。

國家と學生

「武士道精神の體認」

城戸幡太郎

語を賜り、御親閱まで仰いでゐるのである。この大命を謹れて學生として國家の使命を遂行すべき各學も責任も感じ、「國家と學生」に關する勅語を賜りて居り、特に常少年學徒に對しては、感激溢れる御勅語を賜はつたと云つても可いこと位西洋史やら西力東漸史を見れば分る。

今まで亞細亞は其れに導せられて甚參略の毒牙に罹つたのである。今や米英の詐僞的文化を驅逐して皇道文化を布く以上はたとひ少々手間は取つても飽くまで正直、誠、清き、明き心を以て後學に對するは勿論、彼等も亦此の正直心で我等に對するやう心から指導して掛かるべきである。

それには先づ我が國史を知らしめ、また皇國精神を以て倫理修身の基礎觀念とし、之に孔孟聖賢の道を皇國精神に外ならざること、佛教基教の理想も結局は大和の榮譽を道るにあることを敬に聞かせすべき立たねばならぬ。そのために學生は兵術を修練したければならぬ。しかし、文武之如の教育といふことは戰に學校大命による國家の使命を遂行して武術を修練することでなければならぬ。この大命を謹れて學生として國家の使命を遂行すべき各學も責任も感じ、「國家と學生」に關する勅語を賜りて居り、特に常少年學徒に對しては、感激溢れる御勅語を賜はつた記念すべき五月二十二日に大東亞戰爭に宣戰の詔勅に關する答申案を發表した。その基本方針として文武一如の教育を施し學校は國家によつて運營すべきことが强調されて居る。武士道の精神と武術とは、常少年學徒に心の中に注意すべき事柄である。常少年學徒に賜はりたる御勅語にも「文ヲ修メ武ヲ練リ質實剛健ノ氣風ヲ振興シ以テ負荷ノ大任ヲ全ウセンコトヲ期セヨ」と仰せられてゐる。文武の修練は教育の根本である。殊に大東亞戰爭を完遂するための學校の教育としては文武一如の修練が肝要である。

しかしそれは學校の教育を單に武術化することではない。大學の修練期間を短縮された。それは教練が正科となつたために學生は學問に專心する時間が少くなつた。これは大學の教育としては甚だ遺憾なことである。學生は果して武術だけを學んでいるかといふことである。大學令第一條には「大學ハ國家ニ須要ナル學術ノ理論及ビ應用ヲ教授シ且其ノ蘊奧ヲ攻究スルヲ目的トシ兼テ人格ノ陶冶及國家思想ノ涵養ニ留意スベキモノトス」とある。大學が國家に須要なる學術の理論及び應用を教授してゐるならば、大學を卒業する人材でなければならぬ筈であり、大學教育こそ國家目的を完遂するために重要なる任務を果すべきものである。

然るにこの重大時局に際し何故に大學の年限を短縮し、入學生の人數を制限されねばならなかつたのであらうか。それにはこれまでの大學教育と學生の學習態度とに問題があつたと見なければならぬ。大學は必ずしも國家に須要なる學術を教授してゐなかつたし學生は必ずしも國家に奉仕するために學問を勉強しなかつたのであらうか。それにはこれまでの大學教育と學生の學習態度とに問題があつたための手段に過ぎなかつた。

殊に私學の教育は經營のために學術の研究にあらはれてゐるであらうか。この點に於ては實に面目もなき次第である。學術研究のための設備や費用の如きも貧弱なものが多くいのである。學術研究も統一せず、學校を卒業しても容ばかりの特權が與へられるだけで、國家目的を完遂するに必要なる任務を果し得るだけの技能を修練することが出來ないのである。國家の要求に添ふ研究の指導と學生の訓練とをなしてゐるか、どうかが問題である。大學は國家に須要なる學術を教授するといつても、それは國家の要求する任務を直ちに遂行し得るが如き修練のためには役立つ得る學術の基礎を築くことは無理かも知れぬ。しかし、大命によつて國家の使命を遂行すべき各學も責任も感じ、「國家と學生」に關する勅語を賜りて居り、特に常少年學徒に對しては、感激溢れる御勅語を賜はつたと云つても可いこと位西洋史やら西力東漸史を見れば分る。

今まで亞細亞は其れに導せられて甚參略の毒牙に罹つたのである。今や米英の詐僞的文化を驅逐して皇道文化を布く以上はたとひ少々手間は取つても飽くまで正直、誠、清き、明き心を以て後學に對するは勿論、彼等も亦此の正直心で我等に對するやう心から指導して掛かるべきである。

それには先づ我が國史を知らしめ、また皇國精神を以て倫理修身の基礎觀念とし、之に孔孟聖賢の道を皇國精神に外ならざること、佛教基教の理想も結局は大和の榮譽を道るにあることを敬に聞かせすべき立たねばならぬ。そのために學生は兵術を修練したければならぬ。しかし、文武之如の教育といふことは戰に學校

化文と家國

武力戰の華々しい戰果に引き換へて、文化、思想戰の戰ほどうであらうか、とれは深く省みなくてはならぬ問題である。大東亞戰爭の本義が徹底してゐないと無なる武力的侵略として解せしめる樣な怨るべき誤りを生ぜしめる。故に我が國の特殊性を知り且つそれに基いた文化は如何なる形に於て建設さるべきものであるか、此の時代に激情的なものであるだけに帝都が思考と實踐が必要であると思はれる。故に本號は國家と文化の問題を特輯として取上げた。

ヨーロッパ文化は、今後如何なる世界文化を創造していくか、讀者諸君と、深く考察しようではないか。

共榮圈の指導精神

本田陰軒

昭和十六年十二月八日、大東亞戰爭の大詔が渙發せられ同時に世界を震撼せしめたのである。ここに我が日本は偖か數個月の間に數百年若くは千年を要する程の大事業を成し遂げた。從つて我が日本國民の自覺は一足飛びに三十世紀程の見透しをつけ得ることゝなつた。

過去二十世紀の間に西洋文化は往く所まで往つたのであるが二十世紀を期限として既に終りを告げ、これからは大東亞文化少くとも日本を指導者として發展すべき文化に轉換すべき製作に立ち至つたのである。然らば如何なる指導原理に當つて東亞十億、延いては全世界の民衆を指導すべきであるか。

同心一體性

第一に同心一體として共存共榮する方針でなければならぬ。我が大日本は神國である。つまり我が國民性は同化性に富み、而も亦自分の特性をも無くせず彼我の長短を巧みに調節して更に優秀なる結果を生むやうになつて來て居る。これは我が特別の國民性であつてこれから種々雜多の住民やら其の衣食住其他の文化に接觸するであらうが、これも我が從來の文化の我が學ぶべきは學び、改良進步せしめ、とにかく我等の兄弟と同胞として彼等に先づ暖き同情心を以て同心、つまり同心一體的心が先決問題である。

右の同心一體となる心掛には儒教で云ふ仁であり佛教に云ふ大慈悲心、基督教に云ふ博愛である。支那は古聖賢であつて古くから孔孟老莊と云ふやうな學說を出て種々の說を垂れたのであるが、是れは我が國と違つて飽り數へがありすぎて食傷し、却て其の敎へを輕視して忘却して終つて居る。飽り物を知り過ぎた成人は敎へ惡いやうに支那人を感化せしめることは却々むつかしい。しかし其の代り極めて單純な神經樣機械で惡いやうに支那人を感化せしめることは却々むつかしい。しかし其の代り極めて單純な神經樣機械で惡いと敬かせしめることは出來ることもある。その點に南洋の住民に若い民族で、白紙に近いのであるから感化し易いのである。支那民族に或るであるから之を指導する人間としては彼等を一體敬愛して導かねばならぬ。南洋民族と雖も必ず經驗する心を抱いてゐたらぬ。兩者いづれにても我等と親戚又は兄弟であると云ふ。

民地裁單企業の指導を特輯とするマレー、東インド諸島）とがある。この東亞農業の三つの地帶、三つの型の、指導的議員一型態をなすものにいふまでもなく、第一の型である。いまや、第一の型の進歩の先頭に立つ日本農業は、その後進性と際經濟を打破し、新たなる有機的統一體に喜ばられねばならぬ。

茶紅東日

健康飲料　一杯の休息　き高り香

甲文堂重版出來

經濟學の根本問題

大阪商大教授　經濟學博士　堀經夫著　B六　二九〇頁　定價一・五〇　送料一五

經濟理論中の最難關は、價値理論及び價格理論である。從來これに關して客觀說と主觀說が行はれ、又これ等兩說を折衷せんとの試みがなされたが、併し未だ其の孰れもが理論的に成功したとはいへない現狀にある。かゝる時に際して、本書は經濟を非資本主義經濟と資本主義經濟に分ち各經濟の分析に當つて明記の主觀說と客觀說とが夫々如何に修補さるべきかを、明快なる論理を以て攝究してゐる

金融理論の新傾向

神戸商大助教授　新庄博著　B六　一九〇頁　定價一・五〇　送料一五

本書は斯學に於ける最近の發展を描出することを目的とすると共に又それらの批評說書としても役立つ樣に諸家の見解をなるべく忠明に且なるべく平明に敍述するに從來の金融理論を一瞥し得た人々に對してより一段の向上を與へんとする意圖の下に、本書は斯學の最新の問題を紹介增補した。一讀を敢て薦む

生産としての經濟

大阪商大教授　福井孝治著　B六　一九〇頁　定價一・五〇　送料一五

今日の經濟理論は少なくとも、その根本的觀點に於て餘りにも周圍の進步からとり殘され、現實に即した理論を創造することが必要だ。斯くしてこそ世界大戰以來の經濟生活の構造變化に對して全く無力なものとして仕舞つた信用を回復することが出來るであらう。本書は斯學の當面に於て經濟學理論改造の大きな企てである。

實用統計學

昭和高等學校教授　關大講師　菊田太郎著　B六　一九四頁　定價一・五〇　送料一五

現在統計の生產利用極めて廣汎になつたに對し一般的、理論的研究が必ずしもその全部を包攝せず若干の背離が存在すること、從つて統計の原理と實際とが並行して研究習得されないことが主因をなすものではあるまいか、かく感ぜられるが故に本書は個々の問題には必ずしも立入らず寧ろ全體としての統計眼に統計學について理論と實際とに一貫して存在するものの追求につとめ以て實際生活に直ちに役立つて得る論述に志した。（一著者識す）

厚生經濟學

東京商大教授　經濟學博士　中山伊知郎著　B六　一・五〇　送料一五

近代資本主義の最も重要なる一特色は、その發展にもなる不調和であらう。厚生經濟學はこの不調和の問題を主として所得の分配の方面から取扱ふことを目的とする。所得或ひは國民分配分の分配に於て發展にをける不調和から最も多くの影響をうけるものは云ふまでもなく働く人々である故に厚生經濟學とは社會の最大多數を占める働く人々の所得を論ずる邪によつて、やがては一般社會の幸福增進の條件を論ずるものと云ふことが出來る。

中小商工業の組合運動

關西大學教授　磯部喜一著　B六　一・八〇　定價一・〇五　送料

戰時經濟が各種の組合問題をして我が國經濟機構の構軸たらしめた事は明らかである。本書はその事を知らずして、今日の經濟を論じ得ない本書は工業、貿易及び商業の三種組合を中心に各種組合問題の進展、現在、未來を達觀して說す所がない。必ず讀者をして今後我國經濟に處する心構を形成し得よう。

學術論文の書き方

大阪商大助教授　五島茂著　B六　一・〇五　定價一・〇五　送料

學術論文の書き方にはコツがある。殊に經濟法律其の他の社會科學關係のものはさうだ。本書はそのコツを眞髓より解明し、高等專門學校、大學の學生諸兄並に一般研究者の要望に應へたものだ。即ち文章表現技術の訓練研究から學術研究論文の製作方法を詳述したもので、研究論文執筆に際してはまさに必携の指導書である。

發行所　甲文堂書店
大阪市東淀川區長柄中通二ノ十
電話堀川一三四九・振替大阪六二五二〇

文學と民族意識

——國家に歸納面於ける文化——

十 返 一

すでに多くの人々が、あの歴史的な日、昭和十五年十二月八日の意義と感動を述べた。その日を境界として如何に多くの人々が、自己の民族意識に決戦を興へた事であらう。私たちはその人たち全部の國民的意識に對して充分の信頼を持つ、そして其礎に然と上る信念が、やがて大東亞戦爭をして輝かしい勝利に導くであらう。

然し、國家的意識とは何か多くの感動的文章に接しながら私がその反省を胸臆から、それらの文章の書き手たちに今一度問ふてみたくなつたのも事實である

何故ならば、或る人々の文章によると、國家的意識とは人間の自意識とは違つた全く別個の意識のやうに書かれてゐる。人間であるよりも國民であれ、といふやうな言葉が、よく言はれるが、ここには人間と國民を全く別個した態度がみられる。

本紙は私に文化も、今日にあつては國家的な面において のみ存在し得るといふ事について課題を興へた。私は今しばらく、この文化に代ふるに文學をもつてしてこれについて考へたい。私は文學は文化の一つであり、以下のことは他の藝術、生活文化についても、それぞれ云ひ得ることゝ思ふ。

民族意識をもつて文學とは——といふことが言はれる。この言葉は全く正しい。しかしこの言葉とそれでは、人間意識をもつて文學とは、といふ言葉は、言葉として過つてゐても、現實として果して如何に違ふか。文學者が文學する事が自意識の營みである限り、民族意識が自意識と化してこそ、それは果されるのである。民族意識は自意識よりも大き過ぎもなければ小さ過ぎもしない。人間であることであり、人間であることは、文學者にとつては文學者である事である。それであればこそ、職域を護ることがその儘に國家を護ることであり得るのではなからうか したが つて、私は前に掲げたやうな人間であるよりも國民であれとか、文學者は國民にかへれといふ知き標語の必要を容易に信じ難いのである。

勿論、それを叫ぶ人々の、さう叫びたくなつた意を認めるのには吝かではない。然し、今日革新期の隠憂に乘じて、如何に善意といふ尊い言葉が餘りにも多くの人々に無雑作に放言され、安價に薄汚れてゐるかをも反省したい課には、いかないのである。

更に十二月八日の感動を非常に手取早く小說化してみせた職業的文學者たちに對して私はそこでも彼等の善意は認めながらも、彼等の精神的かつ現實的態度については、多くの憤懣を感ぜざるを得ないのである。それは私の文學者としての憤懣であり、人間としての憤懣である。あのやうな貴重な感ぜ代への、ない體驗を、翌日は早速小說にしてみせる事は、文學者として良心ある態度ではない。それはまた人間として、自己の感激を深味はうとする態度ではないそして、それは國民として、歴史的な日を眞に歴史的に感ぜの中において捕へようとしない態度である。

私のかやうな觀方は、今は便宜上、文學者として人間として國民としてといふ風にやゝ感覚化して述べたが、勿論この間に何らの區別あるのではなく、それらはその儘どれにも通ずる全體的な問題である。

或る批評家は、十二月八日を描いた小說が殆ど私小說であつたのを指摘して、今後は私小說が作家の愛國心を表現するに最も都合のよい形式として存立するであらう、との意味を發言してゐた。私は驚つてもいゝが もしさういふ事情の爲に私小說が繁榮するなら、それは私小說にとつて決して名譽でもなければ、また作家の愛國心につても名譽な事ではない文學乃至文化が、國家的面に歸納されるといふことは、かういふ事で はないのである。

かくて、文學も文化も國家的面において、殺立つのはあくまで文學、文化として殺立ち得るものであり、またその根本は常にそのやうな文學文化を創る人たちの責にあるのである。如何なる大きい問題も、この小さい問題を除いては全く樹立し得たいことゝあくまで文學、文化として殺立つのは、文學や文化を國家に歸納するなら、それは私小說にとつて決して名譽でもなければ、また作家の愛國心につても名譽な事ではない。

私小說を生命とするこも等しい人々にとつて、自己といふものが必ずしも滅實に考へられてゐないといふ事である。

かくて、文學も文化も國家的面において、殺立つのはあくまで文學、文化として殺立ち得るものであり、またその根本は常にそのやうな文學文化を創る人たちの責にあるのである。如何なる大きい問題も、この小さい問題を除いては全く樹立し得たいことゝあくまで文學、文化として殺立つのは、文學や文化を國家に歸納するなら、それは私小說にとつて決して名譽でもなければ、また作家の愛國心につても名譽な事ではない。

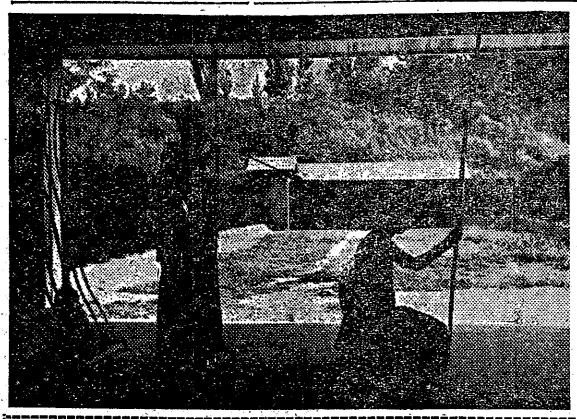
十二月八日を描いた小說が殆んど私小說であつたのは、現代作家の生活の貧しさによる、彼等の精神的覺醒と素材の缺乏を語ると他ならない。しかも、甚だ皮肉な、そして悲劇的な事實は、かやうに私小說しか書けない作家或ひは支那事變が大東亞戦爭に展開しても我々は何の恐るゝ所もない。却て拔本進源の結果は大東亞共榮圏の千年の繁榮を期し得るを喜んでゐる。たゞ赫々たる戦果の後につゞく建設に對しては我等と我等の職域に於て何等かの貢献をして銃後の務めをなさねばならない。平生多少言語に風心を持つてゐるものだから硬にこんな題を編輯者は課したものと見える。たゞ事が少し門外を脱したゝめに編輯者の意圖に合し得るや否やを恐れる

現下の大東亞戦爭の範圍だけでも既に驚異すべき廣さである。北は蒲洲樂古から南は赤道を越えて極闌島の東印度に及び、然も文之を越えて豪洲に纏んとしてゐる。東は布哇諸島を含んで米國西岸に至る事が出來ないし、印度濠倫島も我が戦線に打ちひしがれてゐる

東一西 南一北 共に數千里、誠に廣大なる範圍と云はざるを得ないではないか。この廣大なる地域内の住民が皆我が皇風に靡いて、支那事變が大東亞戦爭に展開しても我々は何の恐るゝ所もない。却て拔本進源の結果は大東亞共榮圏の千年の繁榮を期し得るを喜んでゐる。たゞ赫々たる戦果の後につゞく建設に對しては我等と我等の職域に於て何等かの貢献をして銃後の務めをなさねばならない。平生多少言語に風心を持つてゐるものだから硬にこんな題を編輯者は課したものと見える。たゞ事が少し門外を脱したゝめに編輯者の意圖に合し得るや否やを恐れる

現下の大東亞戦爭の範圍だけでも既に驚異すべき廣さである。北は蒲洲樂古から南は赤道を越えて極闌島の東印度に及び、然も文之を越えて豪洲に纏んとしてゐる。東は布哇諸島を含んで米國西岸に至る事が出來ないし、印度濠倫島も我が戦線に打ちひしがれてゐる

南一北 共に數千里、誠に廣大なる範圍と云はざるを得ないではないか。この廣大なる地域内の住民が皆我が皇風に靡いて、



東洋語研究の奬勵

——共榮圏内の言語問題——

石濱純太郎

御稜威の下我が忠勇なる陸海軍將士の奮戰によつて大東亞戦爭は遂々たる比類なき戦果を以て進捗して行つてゐる

(學部) 大東亞戦爭遂行のさなか、武士道數育に愈々拍車を加へつゝある報國團體傳練部門道部に於ては、かねてより道場の新築計畫を企圖しつゝあつたが、この程報國團より建築費の大半を仰ぎ部員の熱情籠るゝ寄附金を加へて新道場の建築滞く完成し、去る六月十四日曇天ながら日曜日を期して月道部新道場の落成が行はれた、同道場は綠濃まやかな千里山麓道場地を占め、建坪總數三十坪よりなるいとも崇厳なる香り高き日本造より成る定期戦を迎へ部員一同は愈々稽練に邁進しつゝある事は期待する所である

(上圖は新道場に於ける部員の稽練言)

弓道新場竣

成し、去る六月

(學部) 新學期を迎へて早々就職採用申込が續々發到しつつあつたが、卒業を後三ヶ月に控えた現在、各求人申込書此、殆んど出揃の觀を呈した

滿を持す新學士

就職戦線、活潑化

その總數八十七社で、就職戦線も漸く白熱化し、各社とも六月下旬で大體締切る豫定であるが明治製糖はトップを切つて本月二十二日入社試驗を行ふ等、他は目下推薦に大童の現狀である、況戦下萬を持す新學士の心境は？學生課に新卒業生の就職狀況を打診すると

全般的に見て兵隊への願心が強く、學生の積極的意志が缺けてゐるやうです、之も戦時色とも云へませうが、もつと早く書類を提出して欲しい、今の所未定何とも云へません

と嘆してゐるが、ともあれ、

扱方法につき講話など

▽第二日目（十一日）脱穀、裝穀、馬の手入方法等實地指導による訓練

△第三日（十二日）は獨自課習最後に部員の模範騎乘

以上の如き日程を經て、參加者の終始眞剣なる態度と部員の熟心なる指導により、豫期以上の効果を收めて無事終了した

勤勞奉仕終る

(學部) 去る六月二日より五日迄の間に亘つて本學初の勤勞奉仕は大阪某陸軍兵器廠へ〇〇名出動したが早朝より運搬に働き通りに、終始熟心に作業を續け豫定の仕事を遂全に終了

當局者より學生諸君の眞摯なる作業によつて當所の仕事が豫期以上に進捗し甚だ欣快とする處である、今後共諸君は帝國の榮譚なる自覚を完遂するため御關力下されん事を望むと感謝の辭を受けた

全學生へ實施

國民體力法行はる

(學部) 國家の富學學徒に對する肉體的要請は極度に昂まつて本年度より滿二十五年迄に擴張された國民體力法により全學學生に對しペルクリン反應重ねに精密診を實施されると云つた法律が强要するものであるから絶に參加義務を有するもので、もし受戦せざるものは罰則の適用を受ける模定日程は

ツベルクリン注射 六月十五日 各一年、法文二年

ツベルクリン反應 六月十六日 經商二年各三年

ツベルクリン反應 六月十七日 各一年法文二年

精密診 六月十八日 經商二年各三年

精密診 六月十九日 法文三年

六月二十一日 經商一年

六月二十二日 經商一年

六月二十三日 法文二年

六月二十四日 經商二年

六月二十五日 法文一年

▽重要疾患（二十五疾の徴を

馬事訓練會

基礎知識を指導

(學部) 米英に對して宣戦の詔勅渙發せられてより國學生の希望に答へて開催された、馬事訓練會は六月九、十一、十二の三日間新緑したる關大馬場に於て赤石教官の監督、馬術部員指導の下に參加者卅名を以て擧行した

同會は馬に關する一般基礎知識體得と國防的要請への即應を目的とせる當二年生を優先的に參加せしめ、終始一貫軍隊式嚴格なる行動と態度を以て行はれた

△第一日目（九日）馬術部長田邊講師挨拶、佐藤教官講話「馬に關する精神教育」及び赤石教官の馬の一般取扱方法につき講話など

▽第二日目（十一日）脱穀、裝穀、馬の手入方法等實地指導による訓練

△第三日（十二日）は獨自課習最後に部員の模範騎乘

以上の如き日程を經て、參加者の終始眞剣なる態度と部員の熟心なる指導により、豫期以上の効果を收めて無事終了した

就職戦線、活潑化

その總數八十七社で、就職戦線も漸く白熱化し、各社とも六月下旬で大體締切る豫定であるが明治製糖はトップを切つて本月二十二日入社試驗を行ふ等、他は目下推薦に大童の現狀である、況戦下萬を持す新學士の心境は？學生課に新卒業生の就職狀況を打診すると

全般的に見て兵隊への願心が強く、學生の積極的意志が缺けてゐるやうです、之も戦時色とも云へませうが、もつと早く書類を提出して欲しい、今の所未定何とも云へません

と嘆してゐるが、ともあれ、

關西鑑界球界

——四シーズン同大關學を破る

關西學生鑑球リーグ戦は朝日新聞社後援の快晴に惠まれた五月八日西宮大運動場に於て本學と同志社大學との戦によつて開始された（前半戦）快晴に惠まれた試合日和に反し、グランドコンディション惡く更に攻撃の主力たるバックに負傷者多数なる突戦を行つたが後半の得手同大の得意なる高速戦法、中央突破等により本學は遂に降し去つた

（前半戦）關學キックを本學球形なる突戦にて關學陣に付けBFを獲得更にライブにてTD、1BTPを得たが關學も中ロングの戦法に成功1TDを獲得した。（後半戦）勢気に溢れたプレーを展開二十七點の大量得點を得て、一方的試合に終始した。なほ本學選手は次の通りである

大学を以て宝々本學の勝利に帰した

學						
本	20	7	12	10	0	大
		0	6	0	0	同
						6

關西鑑界球聯盟は昨日第二回戦を行ひ第一位を獲得せんとする本學は同大を破り第一位を獲得せんとする本學は同大を破り第一位を獲得せんとする本學は同大を破り